

「前立腺癌組織中遺伝子変異を予測する病理学的スクリーニング法の開発に関する研究」に参加された患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	人工知能を用いて病理所見からがん遺伝子異常所見を推測する
研究機関の長	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	(所属) 病理診断学講座 (職名) 教授 (氏名) 都築豊徳
研究の対象となる方	2018年5月から2021年4月までに「前立腺癌組織中遺伝子変異を予測する病理学的スクリーニング法の開発に関する研究」に参加された患者さん
研究期間	研究実施承認日 ~ 2027年12月31日
研究目的及び利用方法	<p>[研究目的]</p> <p>初診時より転移している前立腺癌では、高率に相同組換え修復遺伝子変異(以下 HRRm と略します)が存在することが知られています。遺伝子は複製を繰り返すことが知られていますが、複製に間違いが高頻度に生じ、この複製間違いが癌の発症に大きくかかわっていることが知られてきました。通常では HRRm が複製間違いの修復を行い、正常の遺伝子状態に戻します。しかし HRRm に異常が生じると、誤って複製された遺伝子間違いが修復されず、高頻度に高悪性度の前立腺癌が発症することがあります。前立腺癌の治療であるアンドロゲン除去療法が抵抗を示す去勢抵抗性前立腺癌においては HRRm を有する患者に有効な薬剤が開発されて、実際の治療に用いられています。この薬剤の使用に際しては HRRm の件索が必須です。HRRm の検索には遺伝子検査が必要で、高額な費用が掛かります。前立腺癌の診断に用いる病理標本から HRRm 異常が推測できれば、医療費の大幅な節約が期待できます。人工知能を用いて、病理標本と HRRm との相関関係を明らかにします。それにより前立腺癌患者さんが比較的安価に治療選択できる可能性が考えられます。従来病理学的検討よりも、人工知能を用いた病理標本の検討が正確な予後を推測することが知られています。今回の病理標本を用いて、初診時転移性前立腺癌の正確な予後を判定するモデルの確立を目指します。</p> <p>[利用方法]</p> <p>先行研究で得られた病理標本情報と遺伝子情報(HRRm)を、人工知能を用いることにより統合解析を行います。</p> <p>[外部への試料・情報の提供]</p> <p>試料・情報は個人が特定できないよう標本をデジタルデータ化し、理化学研</p>

	<p>究所に記録媒体を郵送・提供します。</p> <p>[外部への提供開始日]</p> <p>研究実施承認後</p>
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	<p>試料：病理診断に用いられた病理標本を使用します。</p> <p>情報：診療録よりPS、診断日、症状、身長、体重、採血結果などを取得します。</p>
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	「非該当」
試料・情報を利用する学外の者	<p>名古屋大学</p> <p>泌尿器科助教 内藤祐志</p> <p>愛知医療センター名古屋第一病院</p> <p>泌尿器科部長 加藤真史</p> <p>理化学研究所 革新知能統合研究センター</p> <p>山本陽一郎</p>
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	<p>本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2027年6月30日までに郵送，メール送信，窓口での受付，電話等により下記問い合わせ先まで申し出てください。</p>
外国への試料・情報の提供	「非該当」
問い合わせ先	<p>愛知医科大学 医学部 病理診断学講座</p> <p>担当者：(職名) 教授 (氏名) 都築豊徳</p> <p>〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1</p> <p>電話 0561-62-3311 (内線 37410) email: tsuzuki@aichi-med-u.ac.jp</p>